

参考資料

第9回子ども・子育て会議

概要版

東大阪市子ども・子育て支援事業計画に関する アンケート調査

集計結果報告書

1 調査の概要

子ども・子育てに関する市民の実態とニーズを把握するために、就学前児童、小学生、妊婦のいる世帯を対象にアンケート調査を実施しました。このアンケート調査によって国が求めている子ども・子育て支援新制度に関する基礎資料を作成します。また、結果は東大阪市子ども・子育て支援事業計画に反映させることとします。

● 調査対象

平成 25 年 9 月 5 日現在、東大阪市在住の就学前児童（0～5 歳）から 6,048 人を、小学生（6～11 歳）から 3,213 人を無作為に抽出し、対象児童の保護者に送付しました。また、妊婦については平成 25 年度に母子手帳を取得し、出産予定日が平成 25 年 10 月 1 日以降の方の中から無作為で 815 人を抽出し、送付しました。

● 調査の方法・時期

平成 25 年 10 月 1 日に郵送による調査票発送を行い、平成 25 年 10 月 16 日までを期限に郵送によって回収しました。

表 調査の概要

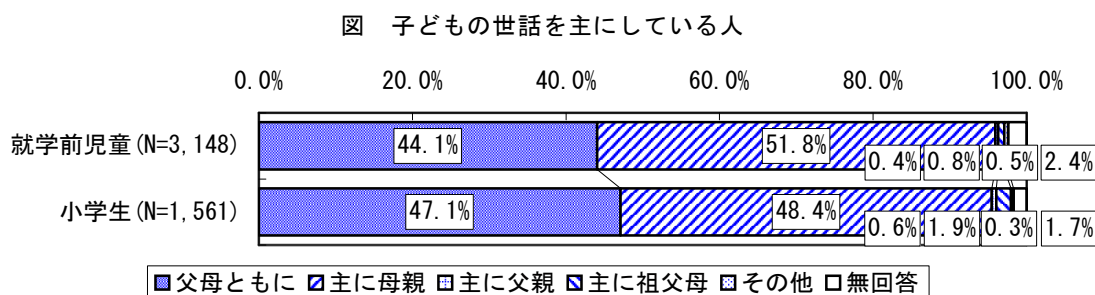
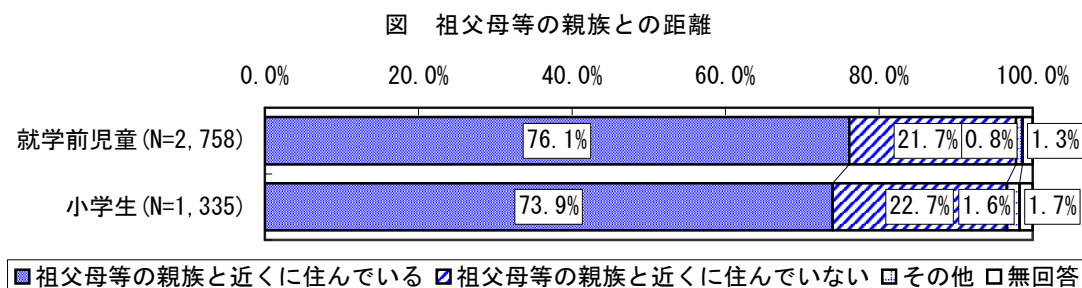
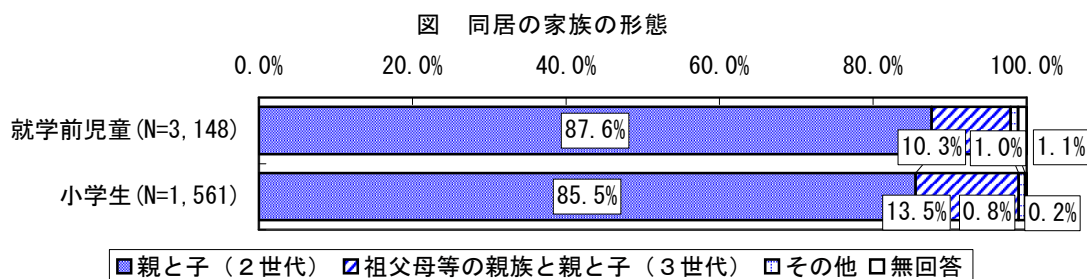
	就学前児童	小学生	妊婦
調査地域	東大阪市全域		
調査方法	調査は、郵送配布、郵送回収で行い、お礼状兼督促状を 1 回送付した。またポスター等による調査に関する啓発活動を実施した。		
調査期間	平成 25 年 10 月 1 日～10 月 16 日 (但し、平成 25 年 11 月 5 日までに市役所へ届いた調査票は集計の対象とした。)		
抽出方法	住民基本台帳に基づき対象者を無作為抽出。妊婦は母子手帳の交付を受けたものの中から無作為抽出。		
調査対象	平成 25 年 9 月 5 日現在、東大阪市在住の就学前児童（0～5 歳）	平成 25 年 9 月 5 日現在、東大阪市在住の小学生（6～11 歳）	平成 25 年度に母子手帳を取得し、出産予定日が平成 25 年 10 月 1 日以降の方
調査対象数	6,048 件	3,213 件	815 件
有効回収数	3,148 件	1,561 件	449 件
無効回収数	8 件	5 件	0 件
有効回収率	52.1%	48.6%	55.1%

2 子どもと家族について

親と子（2世代）で暮らす家庭が多くなっています。親と子（2世代）で暮らす家庭の内、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「祖父母等の親族と近く（概ね 30 分程度に行き来できる範囲）に住んでいる」（8割弱、7割強）が多くなっています。

● 家族の形態、主に子どもの世話をしている人

- ・同居の家族の形態をみると、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「親と子（2世代）」（87.6%、85.5%）が最も多く、次いで「祖父母等の親族と親と子（3世代）」（10.3%、13.5%）となっています。
- ・祖父母等の親族との距離をみると、2世代（親と子）同居の家庭の内、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「祖父母等の親族と近く（概ね 30 分程度に行き来できる範囲）に住んでいる」（76.1%、73.9%）が最も多く、次いで「祖父母等の親族と近くに住んでいない」（21.7%、22.7%）となっています。
- ・子どもの世話を主にしている人をみると、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「主に母親」（51.8%、48.4%）が「父母ともに」（44.1%、47.1%）を上回っています。



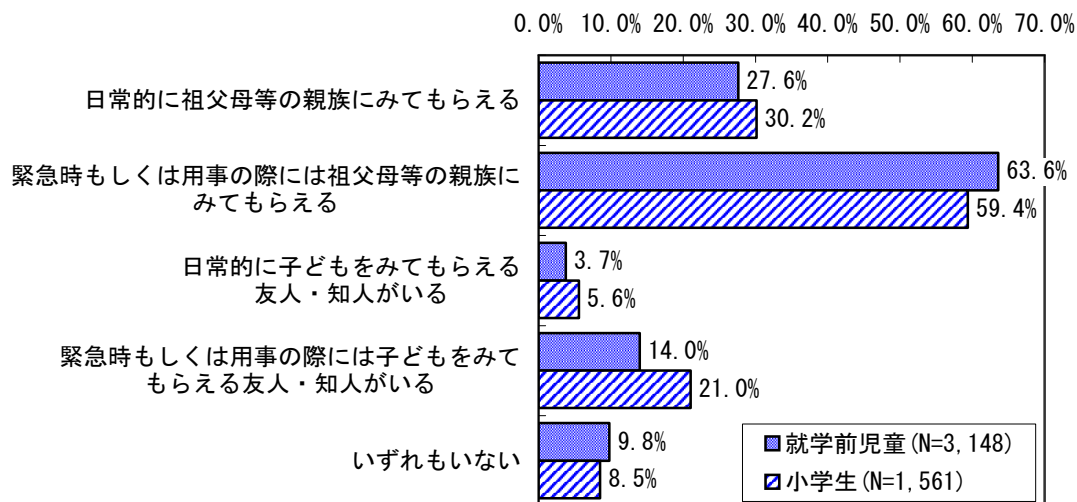
3 子育て環境について

- ◆いざというときに頼れる親族・知人が近くにいる場合は多いものの、頼りやすいと感じている人は5割程度となっています。
- ◆子育てについて相談できる機関の認知度は就学前児童の家庭の8割弱、小学生の家庭の7割弱となっています。子どもの年齢別では年齢が高くなるほど認知度が低くなっています。
- ◆子育ての相談相手としては、配偶者、親族、友人、知人、保育所・幼稚園の保護者仲間、先生、職場の同僚などの身近な方が多い一方で、育児書やインターネット等で自ら調べる家庭も多くなっています。

● 子どもを預かってもらえる親族・知人

- ・子どもを預かってもらえる親族・知人をみると、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(63.6%、59.4%)が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(27.6%、30.2%)となっています。

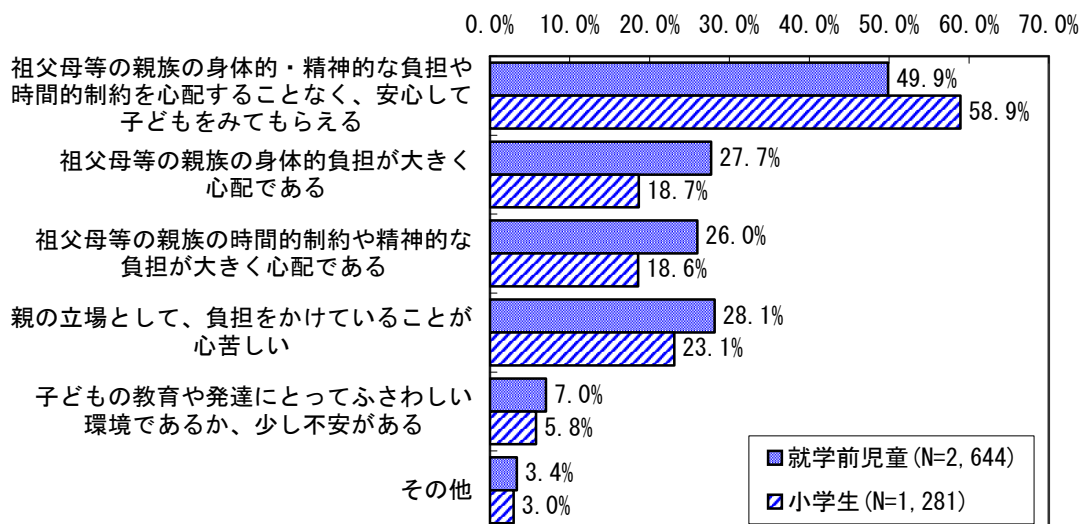
図 子どもを預かってもらえる親族・知人



● 親族に預かってもらっている状況

- ・親族に預かってもらっている状況をみると、祖父母等の親族に子どもを預かってもらっている家庭の内、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（49.9%、58.9%）が最も多く、次いで「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（28.1%、23.1%）となっています。

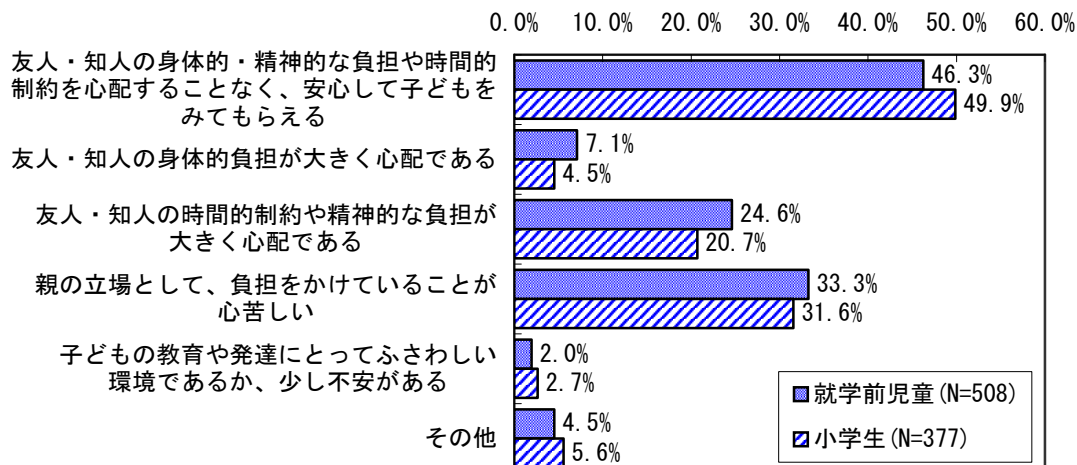
図 親族に預かってもらっている状況



● 友人・知人に預かってもらっている状況

- ・友人・知人に預かってもらっている状況をみると、友人・知人に子どもを預かってもらっている家庭の内、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（46.3%、49.9%）が最も多く、次いで「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（33.3%、31.6%）となっています。

図 友人・知人に預かってもらっている状況



● 子育てについて相談できる機関の認知度

- ・子育てについて相談できる機関の認知度をみると、「知っている」は就学前児童の家庭では77.7%で、小学生の家庭での66.9%を10.8ポイント上回っています。
- ・就学前児童の家庭について、子どもの年齢別に相談できる機関の認知度をみると、「知らない」では「5歳児」が26.1%で最も多く、次いで「4歳児」（20.2%）となっています。「知らない」人は、年齢が高くなるほど、増加傾向にあります。

図 子育てについて相談できる機関の認知度

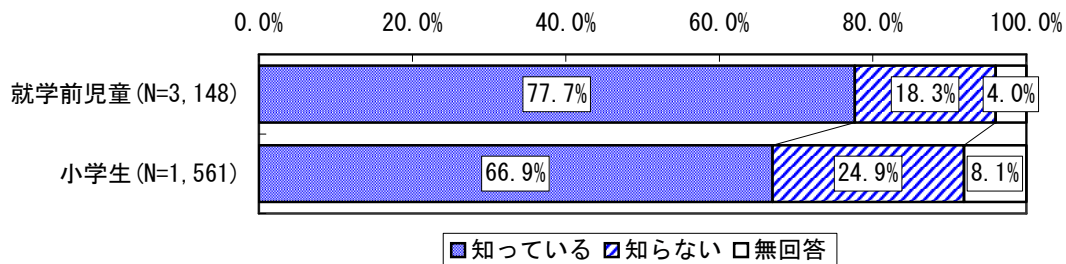
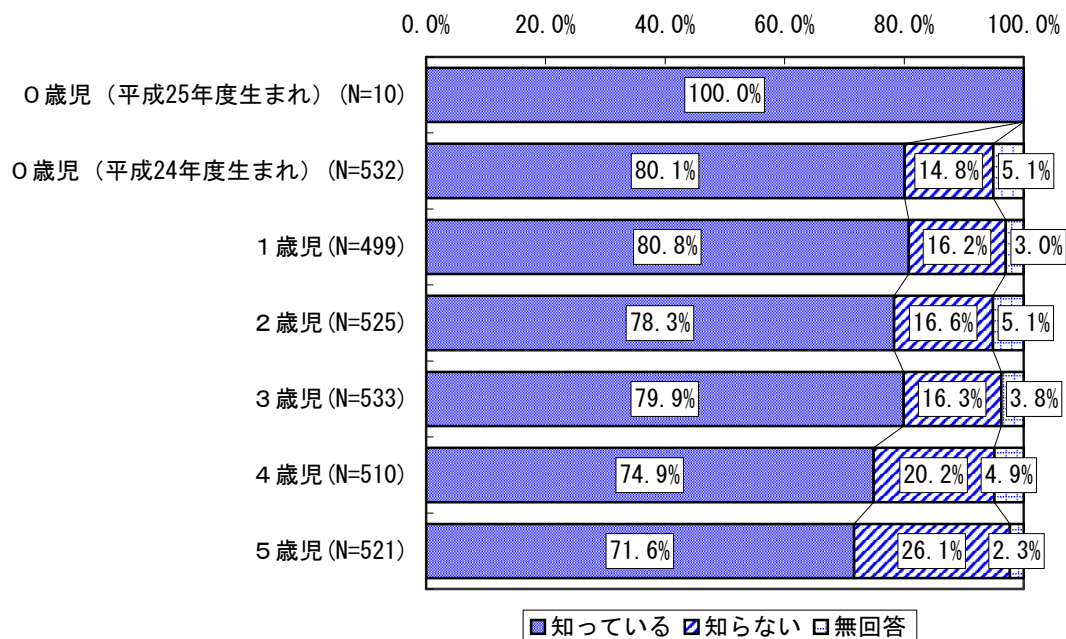
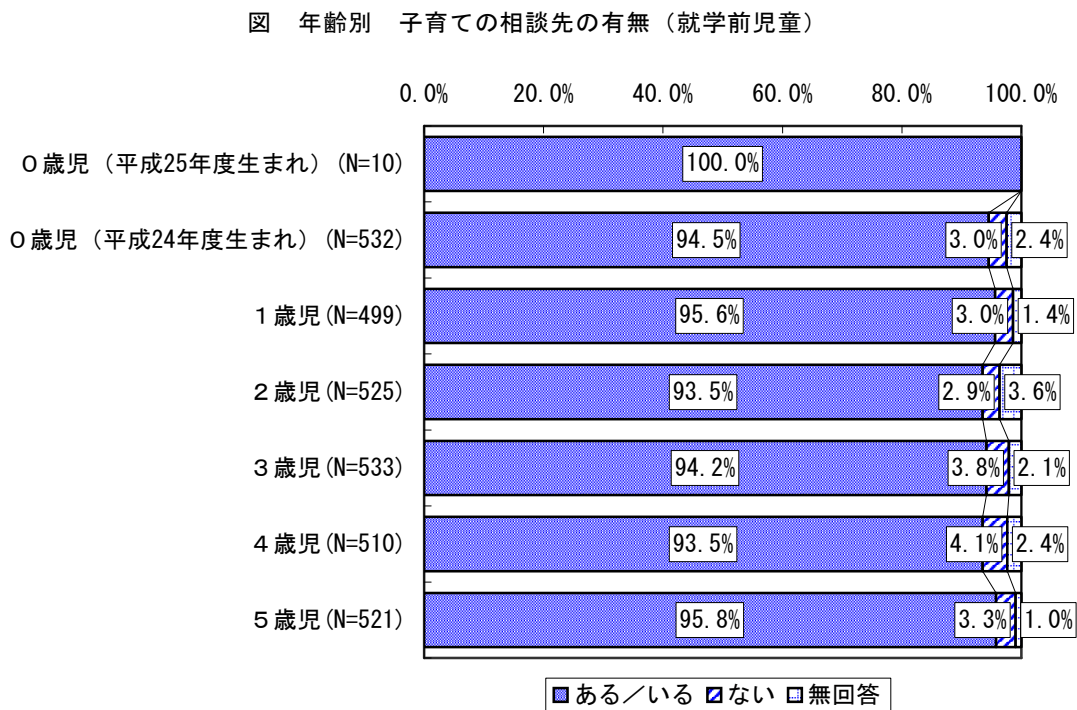
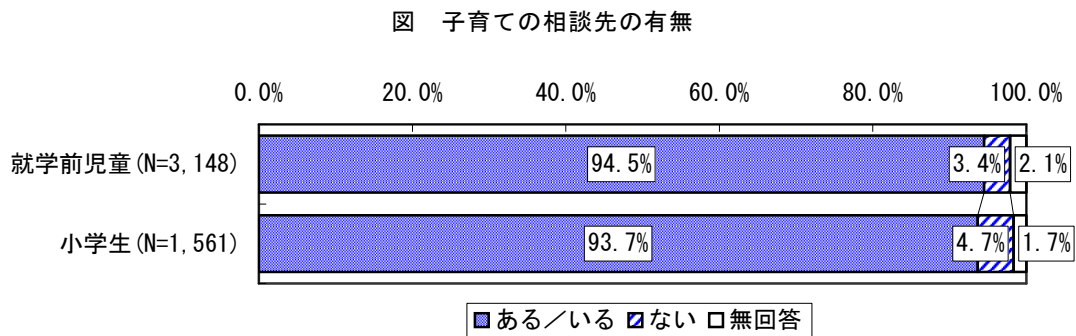


図 年齢別 子育てについて相談できる機関の認知度（就学前児童）



● 子育ての相談先の有無

- ・子育ての相談先の有無をみると、「ない」は小学生の家庭では4.7%で、就学前児童の家庭での3.4%を1.3ポイント上回っています。
- ・就学前児童の家庭について、子どもの年齢別に子育ての相談先の有無をみると、「ない」では、無回答を除いて、「4歳児」が4.1%で最も多く、次いで「3歳児」(3.8%)となっています。

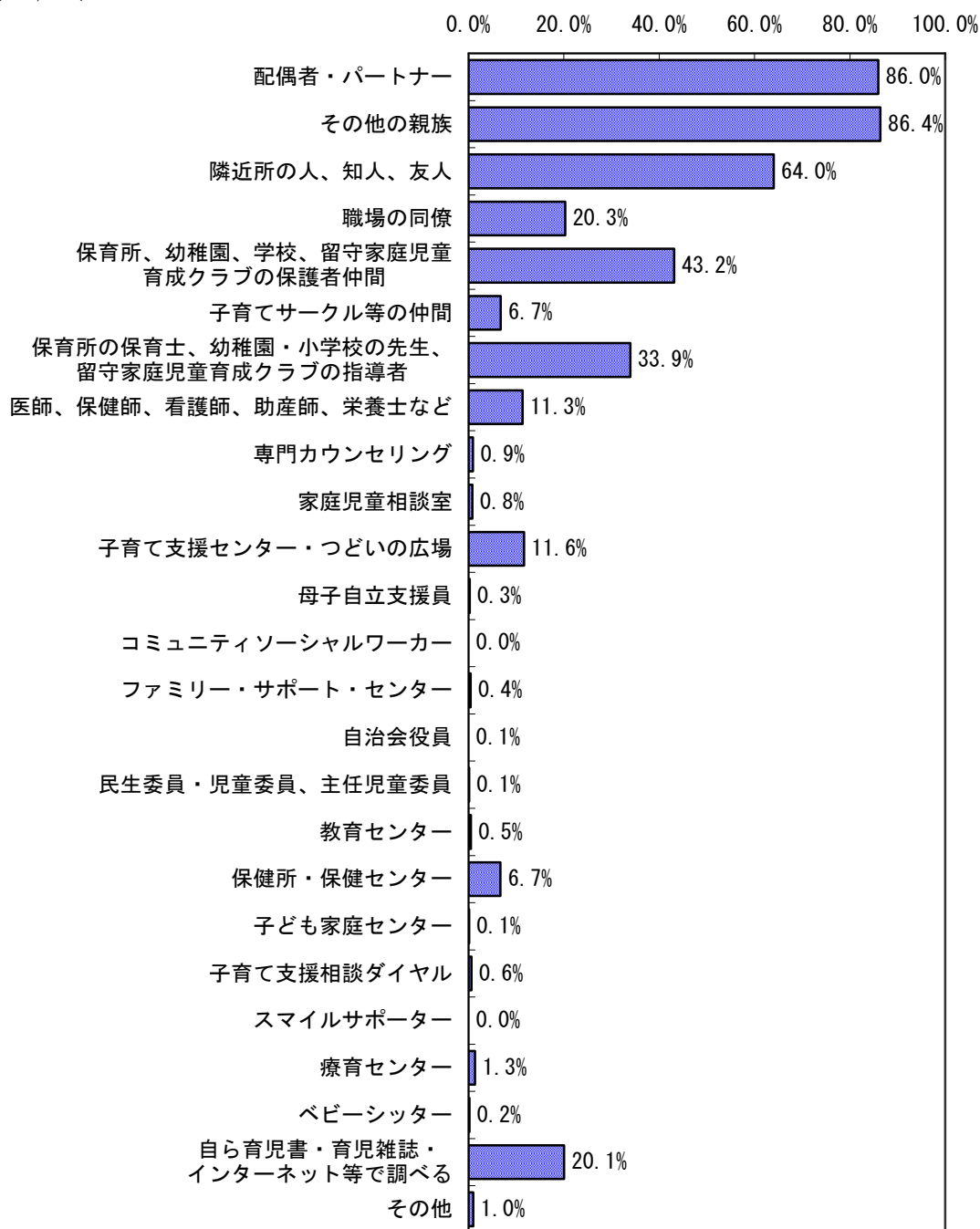


● 相談相手

- ・相談相手をみると、子育てをする上で相談相手のある（いる）家庭の内、就学前児童の家庭では「その他の親族」が86.4%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」（86.0%）、「隣近所の人、知人、友人」（64.0%）となっています。それ以降は「保育所、幼稚園、学校、留守家庭児童育成クラブの保護者仲間」（43.2%）、「保育所の保育士、幼稚園・小学校の先生、留守家庭児童育成クラブの指導者」（33.9%）、「職場の同僚」（20.3%）、「自ら育児書・育児雑誌・インターネット等で調べる」（20.1%）となっています。

図 相談相手（就学前児童）

(N=2,975)



4 保護者の就労状況について

- ◆5年前と比べると就労している母親が増加しています。
- ◆フルタイムで就労している母親は小学生の家庭よりも就学前児童の家庭に多くみられます。一方、パート・アルバイト等で就労している母親は就学前児童の家庭よりも小学生の家庭に多くなっています。
- ◆母親が仕事から帰宅する時間は就学前児童の家庭では「18時～19時」が最も多く、小学生の家庭では「15時より前」が最も多くなっています。
- ◆母親の就労意向をみると、現在就労していない、就学前児童の母親では、「1年より先に就労したい」が最も多く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」となっています。現在母親が就労していない場合、子どもが小学校に上がる際や幼稚園・保育所に入れる年齢ぐらいから働こうとする人とともに、しばらくは子育てに専念したいと考える人も多くなっています。

● 母親の就労状況

- ・母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中含む）」は就学前児童の家庭（22.1%）が小学生の家庭（19.1%）を上回っています。「パート・アルバイト等で就労している（産休・育休・介護休業中含む）」の合計は小学生の家庭（44.8%）が就学前児童の家庭（22.6%）を上回っています。
- ・前回調査と比較して母親の就労状況をみると、就学前児童の家庭では「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中含む）」が22.1%、「パート・アルバイト等で就労している（産休・育休・介護休業中含む）」が22.6%でそれぞれ前回調査（平成20年度）（19.0%、18.8%）を上回っています。小学生の家庭では「パート・アルバイト等で就労している（産休・育休・介護休業中含む）」が44.8%で前回調査（平成20年度）（41.5%）を3.3ポイント上回っています。

図 母親の就労状況

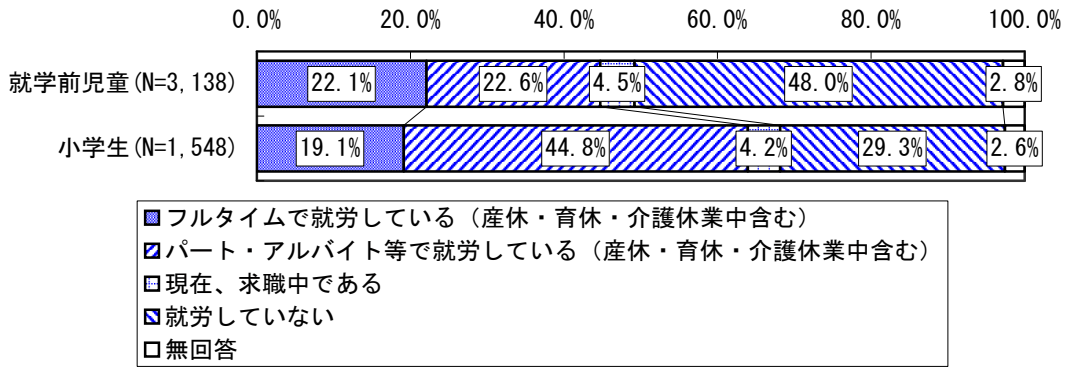
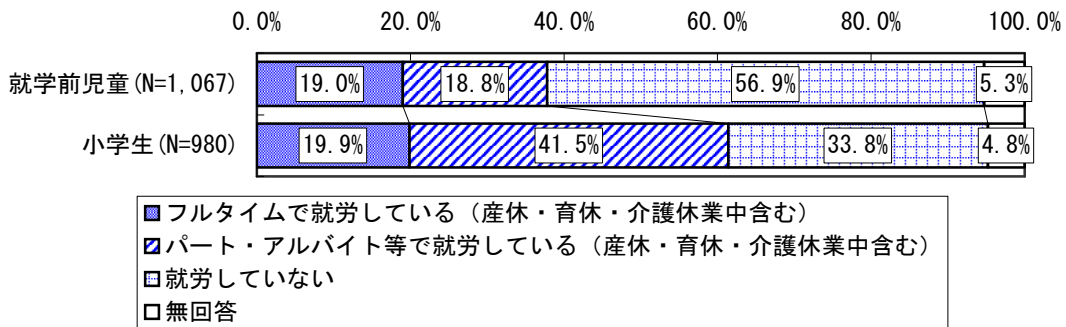


図 母親の就労状況 (前回調査 (平成 20 年度))



● 母親の出勤時間と帰宅時間

・母親の就労状況で「フルタイムで就労している (育休・介護休業中含む)」または「パート・アルバイト等で就労している (育休・介護休業中含む)」と回答した人の内、出勤時間をみると、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「8時～9時」(47.0%、52.2%)が最も多くなっています。帰宅時間は就学前児童の家庭では「18時～19時」(32.6%)が最も多く、小学生の家庭では「15時より前」(23.2%)が最も多くなっています。

表 母親の出勤時間

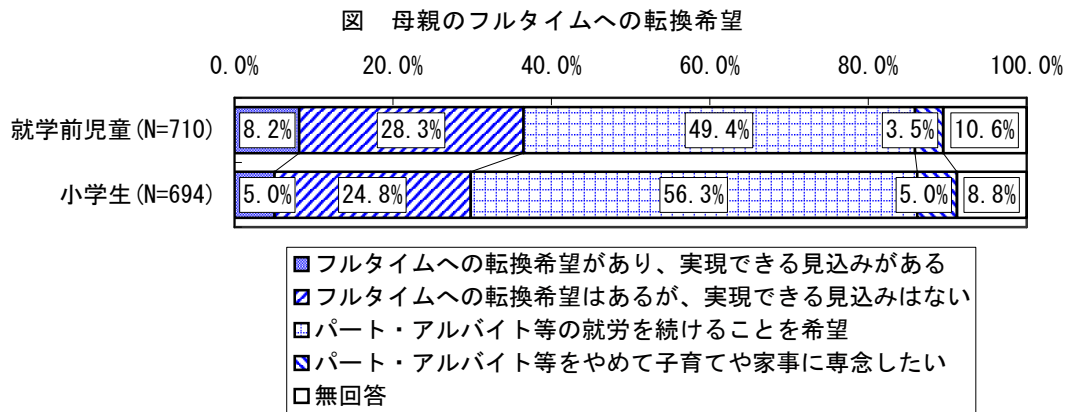
	就学前児童		小学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比
6時より前	11	0.8%	2	0.2%
6時～7時	29	2.1%	11	1.1%
7時～8時	327	23.3%	110	11.1%
8時～9時	659	47.0%	517	52.2%
9時～10時	200	14.3%	211	21.3%
10時～11時	59	4.2%	54	5.5%
11時以降	67	4.8%	44	4.4%
無回答	51	3.6%	41	4.1%
合計	1,403	100.0%	990	100.0%

表 母親の帰宅時間

	就学前児童		小学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比
15時より前	143	10.2%	230	23.2%
15時～16時	74	5.3%	127	12.8%
16時～17時	121	8.6%	105	10.6%
17時～18時	330	23.5%	183	18.5%
18時～19時	458	32.6%	168	17.0%
19時～20時	141	10.0%	81	8.2%
20時～21時	43	3.1%	26	2.6%
21時～22時	20	1.4%	14	1.4%
22時以降	20	1.4%	14	1.4%
無回答	53	3.8%	42	4.2%
合計	1,403	100.0%	990	100.0%

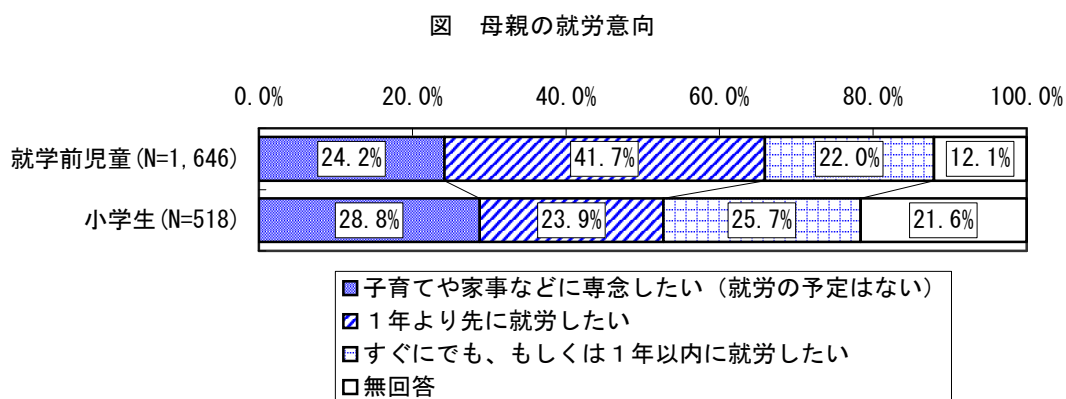
● パート・アルバイトで働く母親のフルタイムへの転換希望

- ・母親のフルタイムへの転換希望をみると、パート・アルバイトで就労している母親の内、就学前児童の母親、小学生の母親ともに「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」(49.4%、56.3%) が最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(28.3%、24.8%) となっています。



● 現在働いていない母親の就労意向

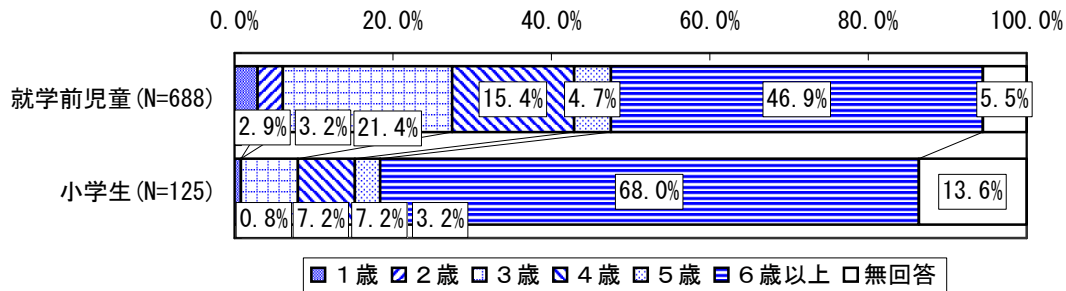
- ・母親の就労意向をみると、現在就労していない母親の内、就学前児童の母親では、「1年より先に就労したい」が41.7%で最も多く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」(24.2%) となっています。小学生の母親では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が28.8%で最も多く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(25.7%) となっています。



● 母親が就労を希望するのは子どもが何歳ぐらいのときか

- ・母親の就労意向で「1年より先、一番下の子どもが一定の年齢になったところに就労したい」と回答した人の中では、就学前児童の母親、小学生の母親ともに「6歳以上」（46.9%、67.7%）となっています。

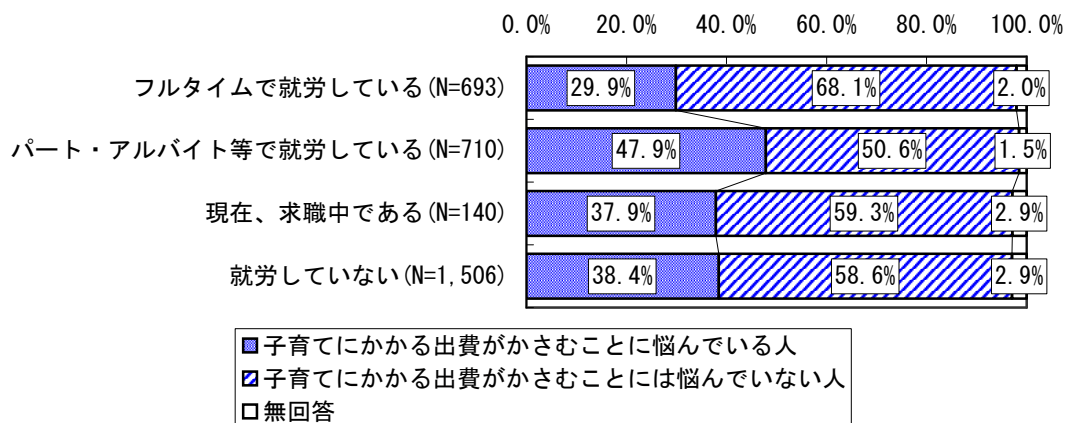
図 母親が就労を希望するのは子どもが何歳ぐらいのときか



● 母親の就労状況別 子育ての出費に関する悩みの有無（就学前児童）

- ・母親の就労状況別に子育ての出費に関する悩みの有無をみると、子育ての出費に悩んでいる人は「パート・アルバイト等で就労している（産休・育休・介護休業中含む）」が47.9%で最も多く、次いで「就労していない」（38.4%）となっています。子育ての出費に悩んでいない人は「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中含む）」が68.1%で最も多くなっています。

図 母親の就労状況別 子育ての出費に関する悩みの有無（就学前児童）



5 就学前児童の定期的な教育・保育事業について

- ◆ 定期的な教育・保育事業の利用者の内、「認可保育所」が最も多く、次いで「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」となっています。
- ◆ 認可外保育施設を利用している理由は「認可保育所の空きがなかったから」。
- ◆ 現在利用している教育・保育事業についての不満では、「利用料金」が最も多く、次いで「利用できる時間」「子どもが病気になった時の対応」「給食」などとなっています。
- ◆ 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望では幼稚園を希望する人が多い一方で認可保育所だけでも全体の4割のニーズがあるなど、保育所関連を希望する人も多くなっています。

● 平日の定期的な保育・教育事業の利用

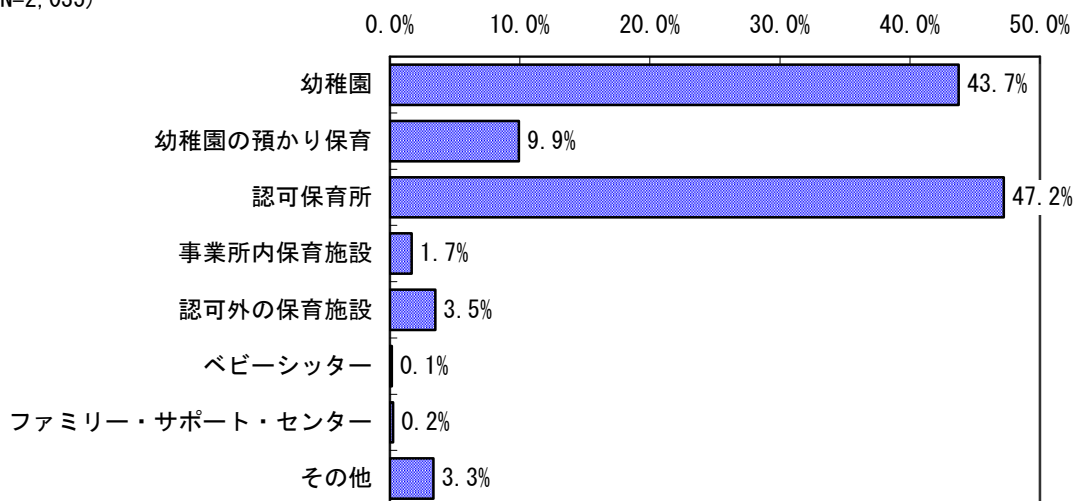
- ・ 日中の定期的な保育・教育事業について就学前児童の家庭の利用をみると、「利用している」が64.6%、「利用していない」は35.2%となっています。

● 平日に利用している教育・保育事業

- ・ 就学前児童の家庭が平日に利用している教育・保育事業をみると、定期的な保育・教育事業を利用している家庭の内、「認可保育所」が47.2%で最も多く、次いで「幼稚園」（43.7%）、「幼稚園の預かり保育」（9.9%）となっています。

図 平日に利用している教育・保育事業

(N=2,035)

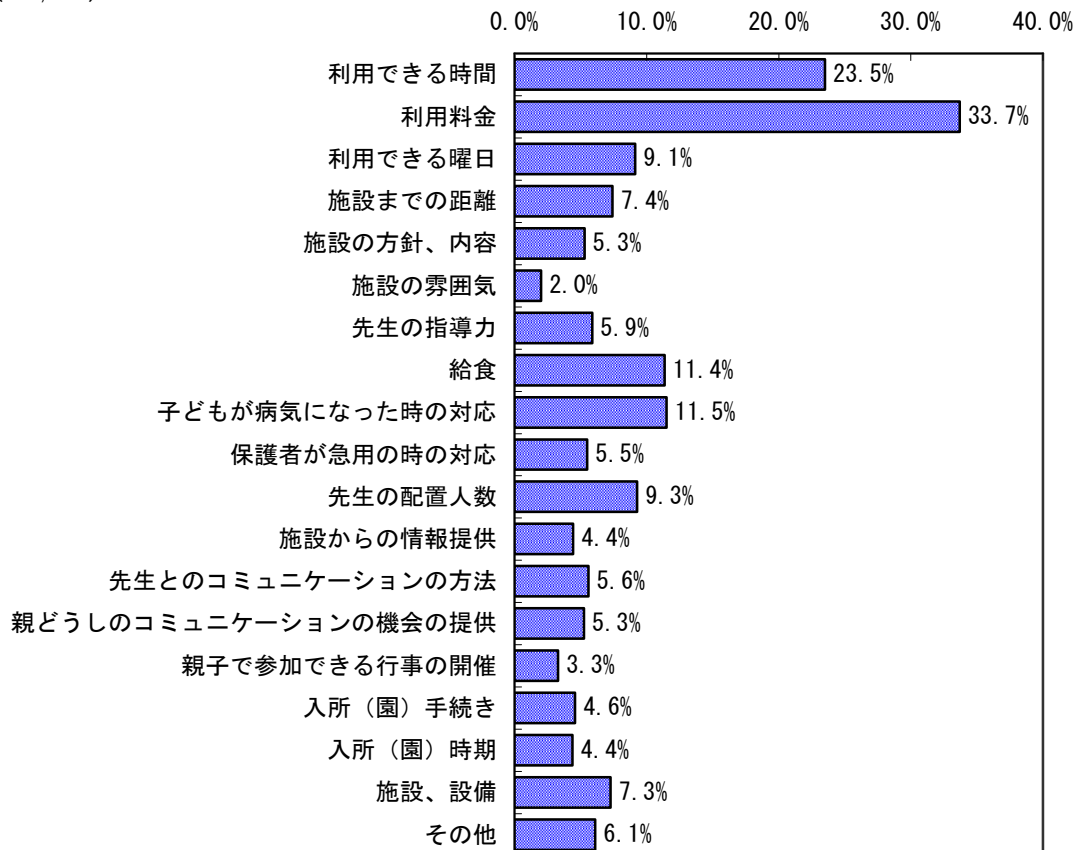


● 現在利用している教育・保育事業についての不満

- ・現在利用している教育・保育事業について就学前児童の家庭の不満をみると、定期的な保育・教育事業を利用している家庭の内、「利用料金」が33.7%で最も多く、次いで「利用できる時間」(23.5%)、「子どもが病気になった時の対応」(11.5%)、「給食」(11.4%)となっています。

図 現在利用している教育・保育事業についての不満

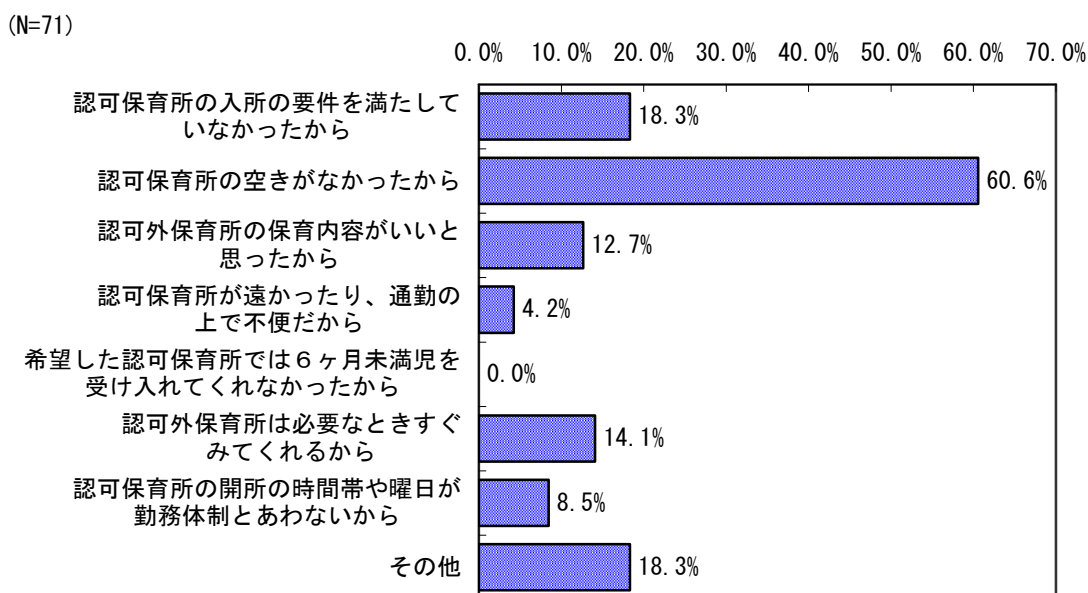
(N=2,035)



● 認可外保育施設を利用している理由

- ・就学前児童の家庭の内、認可外保育施設を利用している理由をみると、「その他」を除いて、「認可保育所の空きがなかったから」が60.6%で最も多く、次いで「認可保育所の入所の要件を満たしていなかったから」(18.3%)、「認可外保育所は必要ときすぐみてくれるから」(14.1%)となっています。

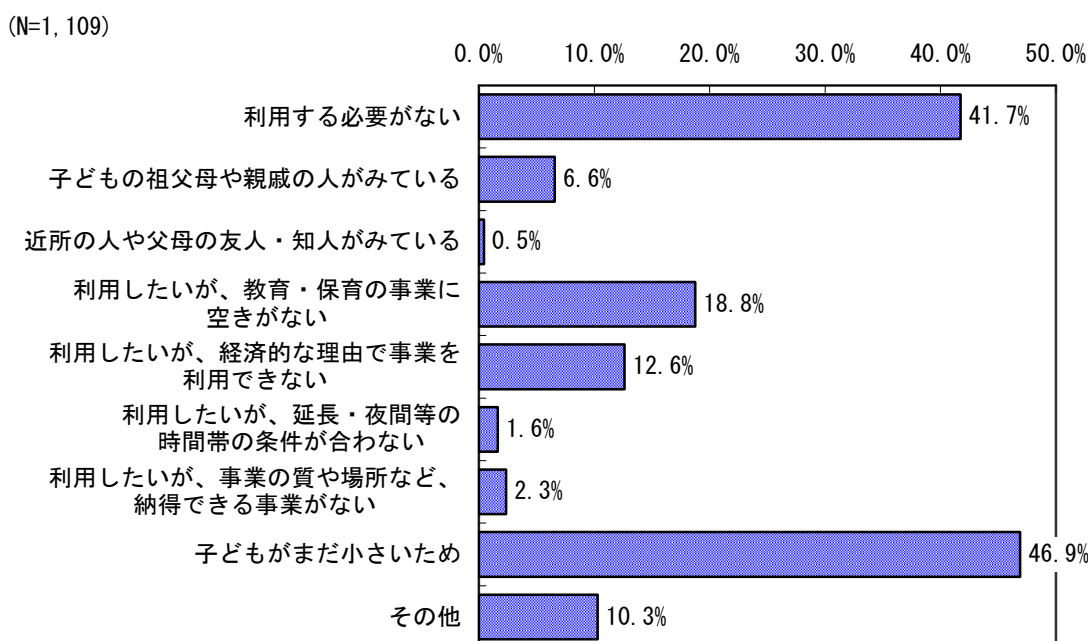
図 認可外保育施設を利用している理由



● 平日に教育・保育事業を利用していない理由

- ・平日に保育・教育事業を利用していない理由をみると、定期的な保育・教育事業を利用していない就学前児童の家庭の内、「子どもがまだ小さいため」が46.9%で最も多く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」(41.7%)、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」(18.8%)、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」(12.6%)となっています。

図 平日に保育・教育事業を利用していない理由



● 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

- ・就学前児童の家庭の内、平日の定期的な保育・教育事業の利用希望をみると、現在の利用の有無にかかわらず、「幼稚園」が56.3%で最も多く、次いで「認可保育所」(40.2%)、「幼稚園の預かり保育」(29.2%)となっています。
- ・就学前児童の年齢別に平日の定期的な保育・教育事業の利用希望をみると、「0歳児(平成24年度生まれ)」では「認可保育所」が56.8%で最も多く、次いで「幼稚園」(56.6%)、「幼稚園の預かり保育」(27.4%)となっています。「1歳児」「2歳児」「3歳児」では「幼稚園」が最も多く、次いで「認可保育所」「幼稚園の預かり保育」となっています。「4歳児」と「5歳児」では「幼稚園」が最も多く、次いで「幼稚園の預かり保育」「認可保育所」となっています。

図 平日の定期的な保育・教育事業の利用希望

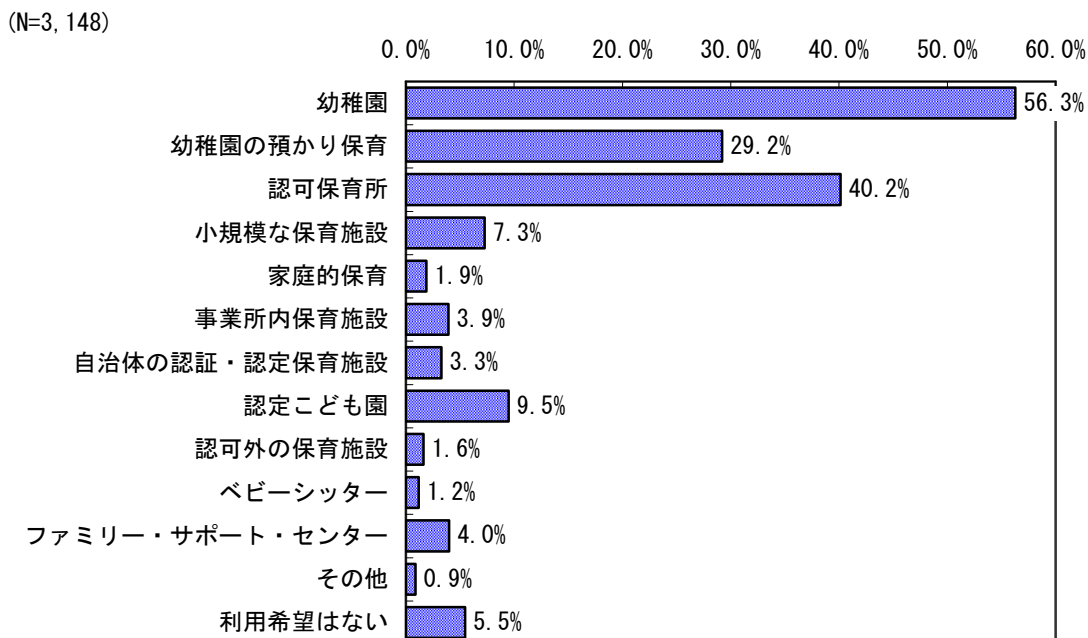


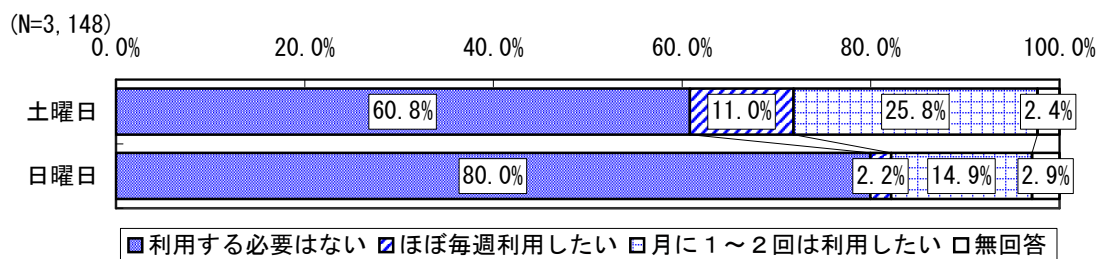
表 年齢別 平日の定期的な保育・教育事業の利用希望

	0歳児 (平成25 年度生まれ)	0歳児 (平成24 年度生まれ)	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
件数	10	532	499	525	533	510	521
幼稚園	40.0%	56.6%	53.5%	57.1%	57.2%	59.6%	53.9%
幼稚園の預かり保育	10.0%	27.4%	26.3%	25.3%	31.3%	32.9%	32.4%
認可保育所	50.0%	56.8%	50.3%	38.5%	36.8%	29.4%	29.2%
小規模な保育施設	10.0%	13.7%	9.2%	6.5%	4.9%	4.7%	4.8%
家庭的保育	0.0%	2.1%	2.0%	2.3%	2.1%	1.6%	1.5%
事業所内保育施設	20.0%	6.2%	4.2%	2.9%	3.9%	3.3%	2.9%
自治体の認証・認定保育施設	0.0%	6.4%	4.0%	2.1%	2.6%	2.2%	2.5%
認定こども園	20.0%	16.5%	11.2%	8.6%	7.7%	6.5%	6.1%
認可外の保育施設	0.0%	4.3%	1.8%	1.5%	0.8%	0.4%	1.0%
ベビーシッター	0.0%	0.8%	1.2%	0.2%	1.5%	1.6%	1.9%
ファミリー・サポート・センター	0.0%	3.6%	3.6%	4.4%	4.3%	3.9%	4.4%
その他	0.0%	1.1%	1.4%	1.0%	0.6%	0.8%	0.6%
利用希望はない	0.0%	2.8%	4.8%	4.4%	6.8%	5.3%	8.4%

● 土曜日・休日の定期的な教育・保育事業について

- ・就学前児童の家庭について土曜日の定期的な保育・教育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が60.8%で最も多く、次いで「月に1～2回は利用したい」(25.8%)となっています。
- ・就学前児童の家庭について日曜・祝日の定期的な保育・教育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が80.0%で最も多く、次いで「月に1～2回は利用したい」(14.9%)となっています。
- ・就学前児童の家庭が土日祝に不定期に保育・教育事業を利用したい理由では、土曜日または日曜・祝日に月に1～2回は利用したい家庭の内、「月に数回仕事が入るため」が54.3%で最も多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(41.3%)、「息抜きのため」(30.7%)となっています。

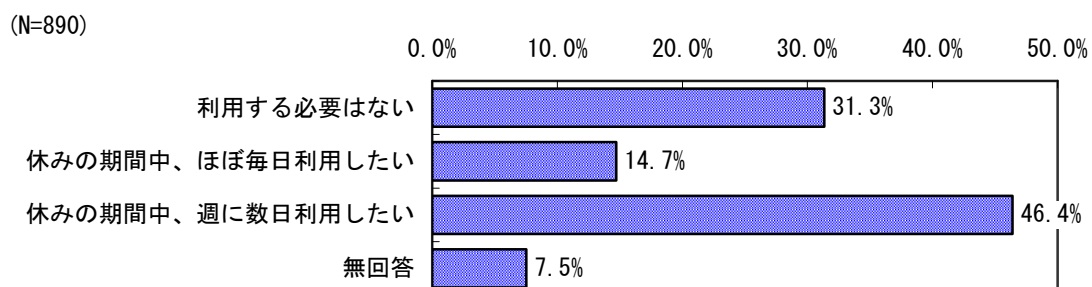
図 土曜日・休日の定期的な教育・保育事業の利用希望



● 長期休暇中の定期的な教育・保育事業について

- ・就学前児童の家庭について長期休暇中の幼稚園の利用希望をみると、幼稚園を利用している家庭の内、「休みの期間中、週に数日利用したい」が46.4%で最も多く、次いで「利用する必要はない」(31.3%)となっています。
- ・就学前児童の家庭が長期休暇中に不定期に幼稚園を利用したい理由では、休みの期間中、週に数日利用したい家庭の内、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が52.1%で最も多く、次いで「息抜きのため」(48.2%)、「週に数回仕事が入るため」(22.3%)となっています。

図 長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望



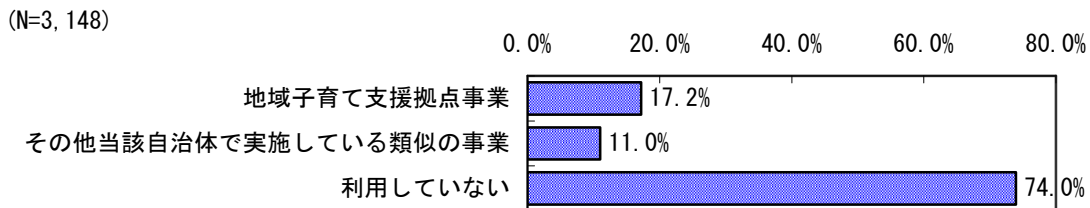
6 就学前児童の地域の子育て支援事業について

- ◆地域子育て支援拠点事業を利用していない人が7割強。利用している人の内、頻度は月1～2日が最も多くなっています。
- ◆地域子育て支援拠点事業は低年齢児ほど利用意向が高い傾向にあります。

● 地域子育て支援拠点事業の利用状況

- ・地域子育て支援拠点事業の利用状況では、就学前児童の家庭の内、「利用していない」は74.0%、「地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をする場)」は17.2%となっています。
- ・地域子育て支援拠点事業の利用頻度では月1～2回(49.5%)が最も多くなっています。

図 地域子育て支援拠点事業の利用状況



● 地域子育て支援拠点事業の利用希望

- ・就学前児童の年齢別に地域子育て支援拠点事業の利用意向をみると、「利用していないが、今後利用したい」では「0歳児(平成25年度生まれ)」が40.0%で最も多く、次いで「0歳児(平成24年度生まれ)」(33.3%)、「1歳児」(28.3%)、「2歳児」(21.7%)となっています。
- ・地域子育て支援拠点事業で利用したいサービスでは、「常設の子育て親子の交流の場の提供」が43.9%で最も多く、次いで「一時預かり」(38.5%)、「子育てに関する相談・援助」(34.2%)となっています。

表 年齢別 地域子育て支援拠点事業の利用意向

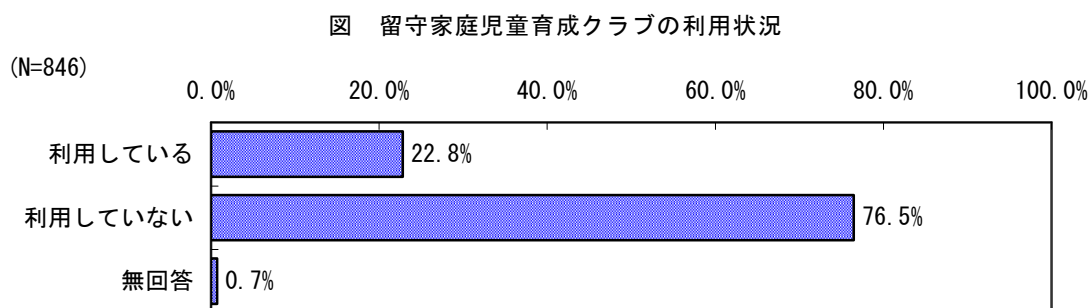
	0歳児 (平成25 年度生まれ)	0歳児 (平成24 年度生まれ)	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
件数	10	532	499	525	533	510	521
利用していないが、今後利用したい	40.0%	33.3%	28.3%	21.7%	19.9%	18.8%	13.4%
すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	10.0%	23.5%	19.6%	13.7%	4.7%	2.4%	2.9%
新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	40.0%	39.5%	47.1%	61.9%	70.7%	73.1%	78.7%
無回答	10.0%	3.8%	5.0%	2.7%	4.7%	5.7%	5.0%

7 留守家庭児童育成クラブについて

- ◆ 留守家庭児童育成クラブを利用している人は小学生（低学年）の家庭の2割強。
- ◆ 小学生（高学年）の内、留守家庭児童育成クラブを利用したい人は1割強

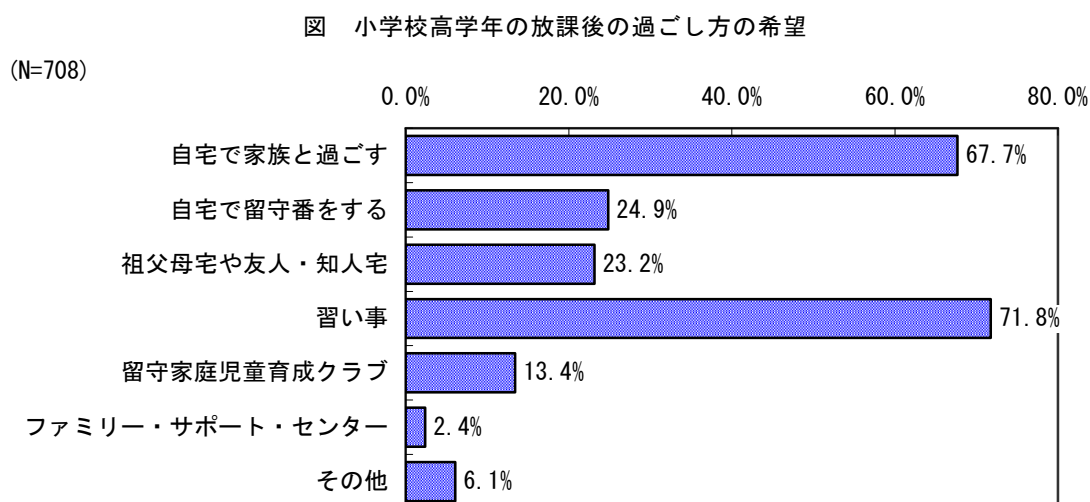
● 留守家庭児童育成クラブの利用状況

- ・留守家庭児童育成クラブの利用状況をみると、小学生（低学年）の家庭の内、「利用している」が22.8%となっています。



● 小学校高学年の放課後の過ごし方の希望

- ・小学校高学年の放課後の過ごし方の希望をみると、小学生（高学年）の家庭の内、「習い事（ピアノ教室、スイミング、学習塾など）」が71.8%で最も多く、次いで「自宅で家族と過ごす」（67.7%）、「自宅で留守番をする」（24.9%）となっています。なお留守家庭児童育成クラブは13.4%となっています。

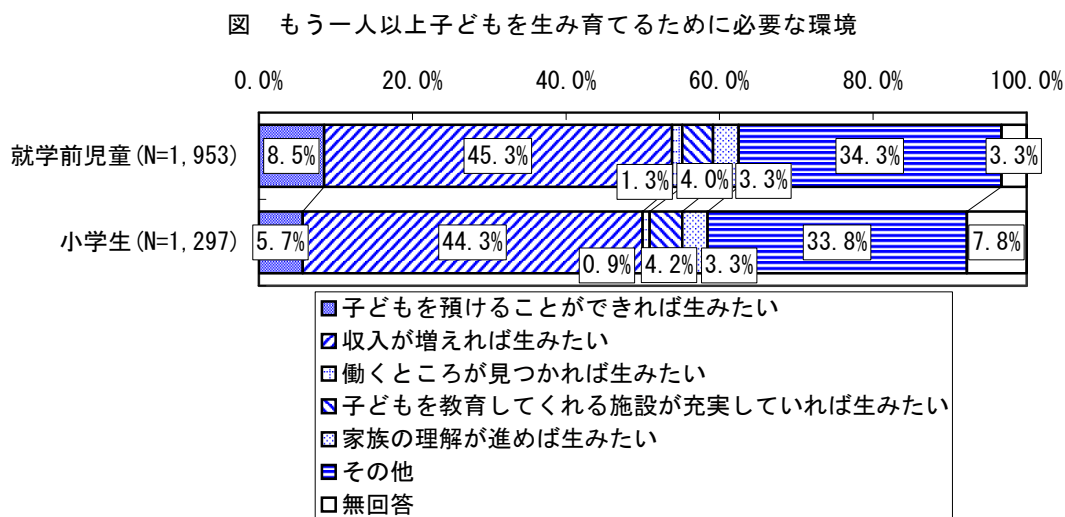


8 子どもや子育てについて

- ◆就学前児童の家庭での預かりを希望する子どもの年齢は、「3歳ぐらいから」が最も多く、次いで「育児休業明けなどにあたる1歳ぐらいから」となっています。希望としては3歳までは手元で育てて、3歳から幼稚園・保育所へ通わせたいと考えている人が多い傾向にあります。
- ◆現在の子育ての不安を5年前と比べると、小学生の家庭では不安を感じる人が増加しています。子育てに不安を感じる比率は、子どもの年齢が高くなるほど増加傾向にあります。
- ◆子育てに関して悩んでいることは「子育てにかかる出費がかさむこと」「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」など。

● 今後の出産・育児意向、もう一人以上子どもを生み育てるために必要な環境

- ・今後の出産・育児意向をみると、もう一人以上子どもを生み育てたいと思う人は妊婦では54.3%、就学前児童の家庭では36.4%、小学生の家庭では13.8%となっています。
- ・もう一人以上生み育てたいと思わない家庭の内、必要な環境をみると、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「収入が増えれば生きたい」（45.3%、44.3%）が最も多く、次いで「その他」を除いて「子どもを預けることができれば生きたい」（8.5%、5.7%）となっています。「その他」には「年齢的に難しいと思う」といった回答がありました。



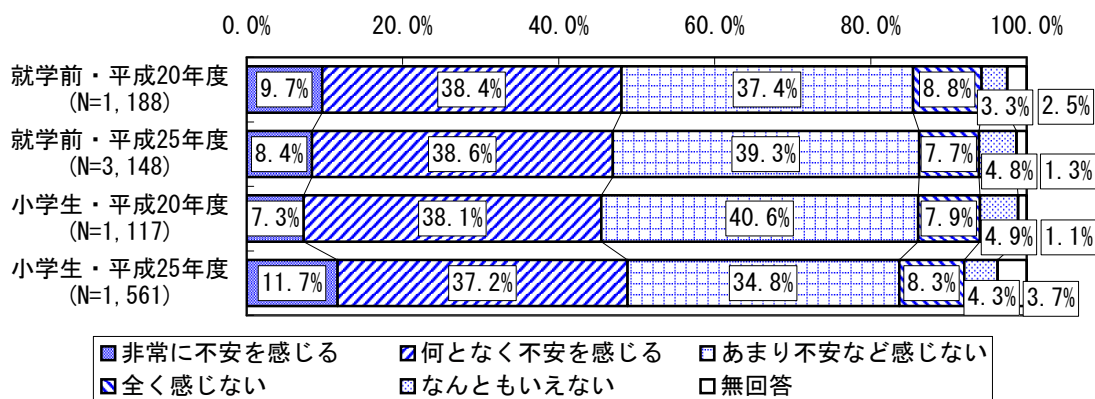
● 預かりを希望する子どもの年齢（就学前児童）

- ・就学前児童の家庭での預かりを希望する子どもの年齢をみると、「3歳ぐらいから保育所や幼稚園に預けたい」が48.2%で最も多く、次いで「育児休業明けなどにあたる1歳ぐらいから保育所に預けたい」(29.1%)、「4歳ぐらいから保育所や幼稚園に預けたい」(15.5%)となっています。

● 現在の子育ての不安

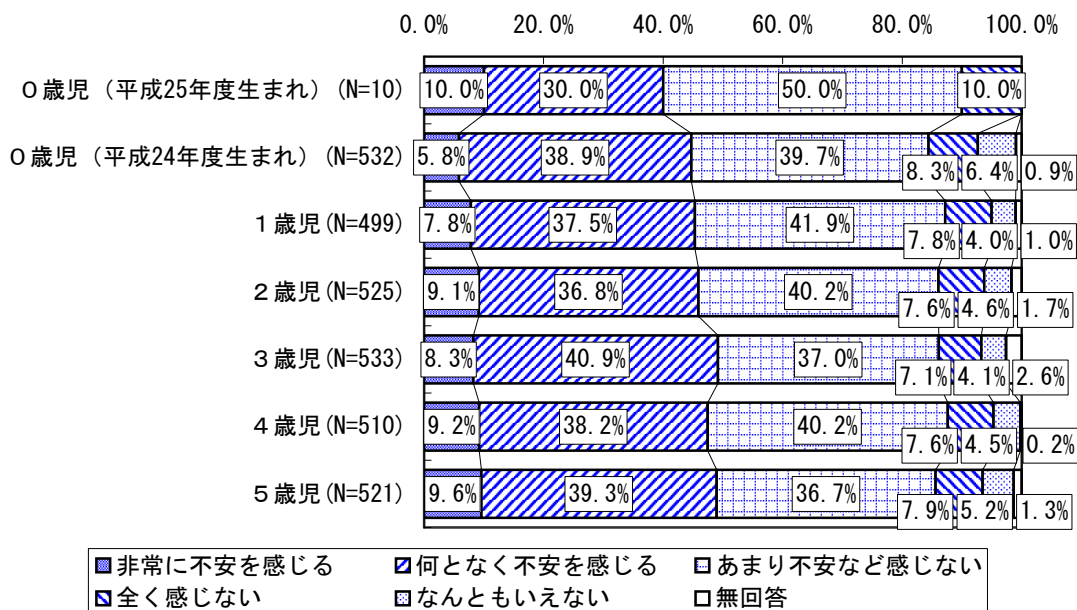
- ・ 前回調査と比較して現在の子育ての不安をみると、就学前児童の家庭では不安を感じる人（「非常に不安を感じる」と「何となく不安を感じる」の合計）は47.0%で前回調査（平成20年度）（48.1%）を1.1ポイント下回っています。小学生の家庭では不安を感じる人は48.9%で前回調査（平成20年度）（45.4%）を3.5ポイント上回っています。

図 現在の子育ての不安



- ・ 就学前児童の家庭について、子どもの年齢別に現在の子育ての不安をみると、「非常に不安を感じる」と「何となく不安を感じる」の合計は「3歳児」が49.2%で最も多く、次いで「5歳児」（48.9%）となっています。「あまり不安など感じない」と「全く感じない」の合計は、「0歳児（平成25年度生まれ）」を除いて、「1歳児」が49.7%で最も多く、次いで「0歳児（平成24年度生まれ）」（48.0%）、「2歳児」「4歳児」（ともに47.8%）となっています。子育てに不安を感じる比率は、子どもの年齢が高くなるほど、増加傾向にあります。

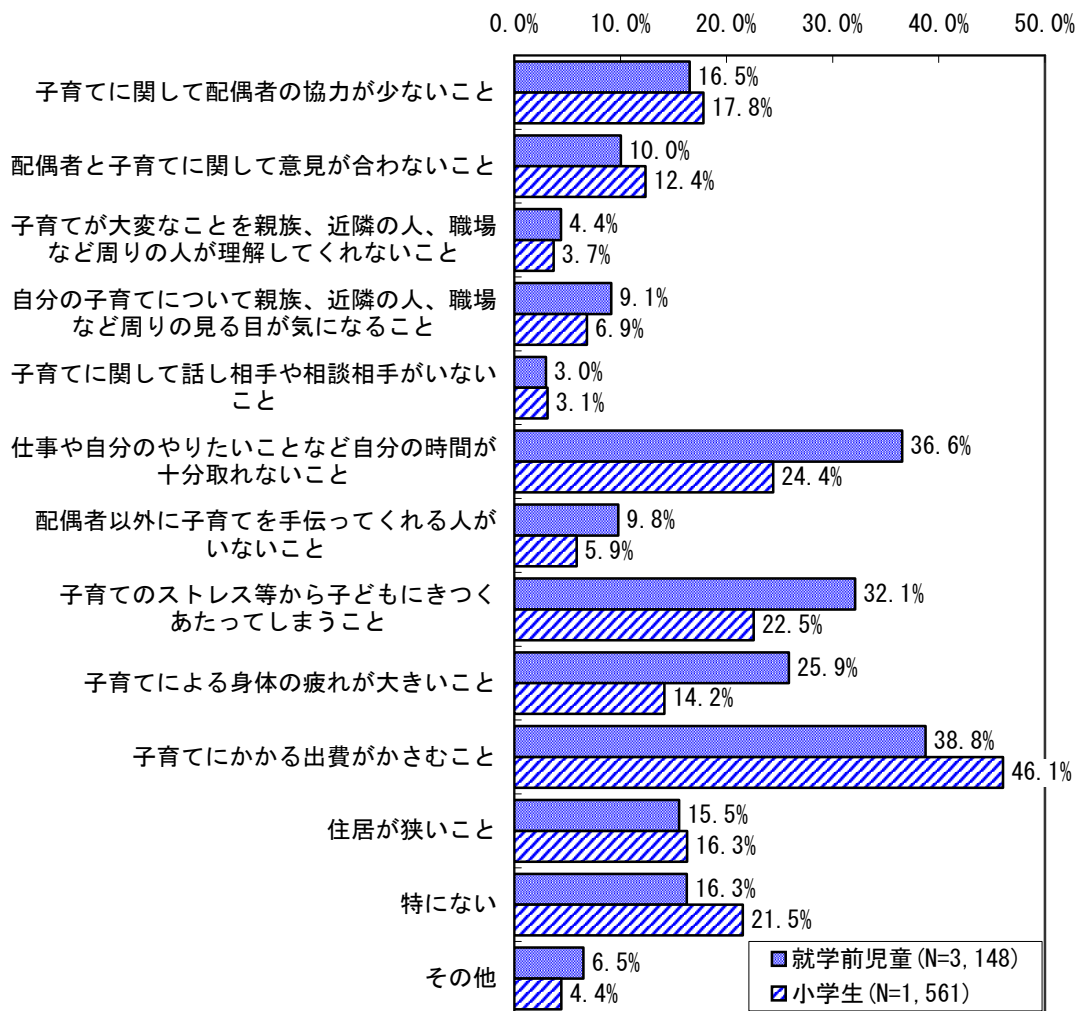
図 年齢別 現在の子育ての不安



● 子育てに関して悩んでいること

- ・子育てに関して悩んでいることをみると、就学前児童の家庭、小学生の家庭ともに「子育てにかかる出費がかさむこと」(38.8%、46.1%)が最も多く、次いで「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」(36.6%、24.4%)となっています。

図 子育てに関して悩んでいること



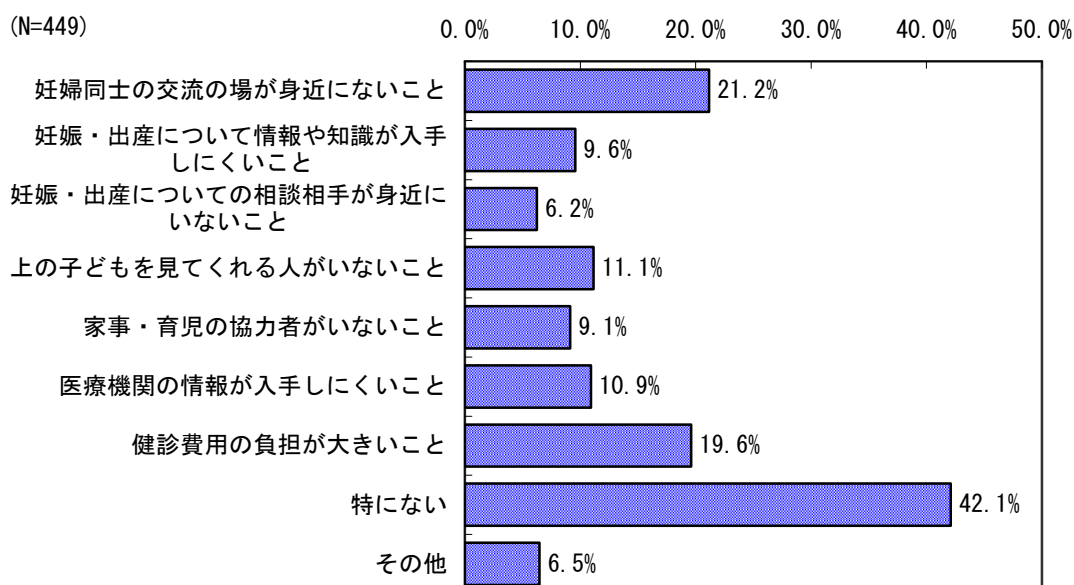
9 妊婦向けの調査から

◆ 妊娠・出産前後に困ったことをみると、「特にない」が最も多く、次いで「妊婦同士の交流の場が身近にないこと」「健診費用の負担が大きいこと」となっています。

● 妊娠・出産前後に困ったこと

・ 妊娠・出産前後に困ったことをみると、「特にない」が42.1%で最も多く、次いで「妊婦同士の交流の場が身近にないこと」(21.2%)、「健診費用の負担が大きいこと」(19.6%)となっています。

図 妊娠・出産前後に困ったこと



● 妊婦健康診査の支援に対する不満

・ 妊婦健康診査に対する支援に不満がある人についてその理由をみると、「助成額が10万円では足りない」が72.2%で最も多く、次いで「健診の助成回数が少ない」(33.3%)となっています。

東大阪市子ども・子育て支援事業計画に関するアンケート調査
集計結果報告書（概要版）

発行 平成26年3月

東大阪市 子どもすこやか部 保育室保育課

大阪府東大阪市荒本北一丁目1番1号

TEL 06-4309-3195

FAX 06-4309-3817
